



第2回あわら市中学生議会報告書

－未来へ－

議会活性化特別委員会



第1章 はじめに

あわら市中学生議会は、市議会が主催し、市内中学校および教育委員会と連携して実施する主権者教育事業である。本事業は、中学生が自ら地域の課題を見つめ、考え、議場で発信する機会を提供するものであり、将来の地域社会を担う人材育成の観点からも重要な取り組みである。

生徒が議場で一般質問を行い、市長および部局長から直接答弁を受けるという、本格的な議会形式を採用している点は、本事業の大きな特徴である。議会という公的な場に立ち、自らの言葉で意見を述べる経験は、生徒に強い印象を与えるとともに、地域社会とのつながりを実感する貴重な学びの機会となっている。

また、本事業は学校教育における探究学習とも親和性が高く、学びの成果を社会に届ける実践の場として機能している。令和7年度も、出前講座をはじめとした事前学習を実施し、生徒が主体的に質問づくりに取り組める環境を整備した。

本報告書は、令和7年度中学生議会の実施状況、成果と課題、学校ヒアリングの内容、そして次年度に向けた改善方向について整理し、今後の事業運営に資するための基礎資料として取りまとめたものである。市議会としては、引き続き学校・教育委員会・行政との連携を深め、生徒が地域社会を主体的に考え、発信できる環境づくりを推進していく。

第2章 実施概要

令和7年度あわら市中学生議会は、令和7年10月22日（水）、あわら市議会議場にて開催した。芦原中学校・金津中学校の両校から3年生17名が参加し、生徒の中から選出された中学生議長の進行により、一般質問が行われた。

今年度は、芦原中学校において、学校終了時刻とスクールバス運行時間が一致しないことから、往路は市のバスを利用し、復路はスクールバス停留所までタクシーで送迎する交通支援を実施した。参加生徒の安全確保と保護者負担の軽減を図ったものである。

事前学習（出前講座）については、各校の希望に応じて時間数と内容を調整し、芦原中学校では60分×2コマ、金津中学校では60分×3コマを実施した。なお、プレゼンテーション指導については、金津中学校の教員からの希望により実施したもので、芦原中学

校では行っていない。

出前講座では、議会制度、行政の役割、予算の考え方を中心に、生徒が質問を組み立てるために必要な基礎知識の習得を支援した。

また、本事業は昨年度まで「子ども議会」として実施していたが、令和 7 年度から小・中・高の三段階に体系的な再構成をしたことに伴い、本事業を「中学生議会」として名称を整理して実施している。

《実施内容一覧》

1 開催概要

- ・日 時：令和 7 年 10 月 22 日（水）
- ・会 場：あわら市議会 議場
- ・参加校：芦原中学校、金津中学校
- ・参加者：3 年生 17 名（中学生議員、議長）

2 当日の主な流れ

- ・開会挨拶
- ・中学生議会議長選出・議事進行
- ・一般質問（16 名）
- ・市長・部局長答弁
- ・市長講評
- ・閉会・記念撮影

3 今年度の特徴的な取組

- ・芦原中学校への交通支援
 - ・往路：市のバスを利用
 - ・復路：スクールバス停留所までタクシーを手配
 - ・事前学習（出前講座）の実施
 - ・芦原中学校：60 分×2 コマ（議会制度・行政の役割・予算の考え方）
 - ・金津中学校：60 分×3 コマ
（議会制度・行政の役割・予算の考え方＋プレゼンテーション指導）
- ※プレゼンテーション指導は金津中学校の教員希望による実施
- ・質問作成支援・リハーサルの充実
 - ・名称整理：「子ども議会」 → 「中学生議会」

4 広報および情報発信

令和 7 年度中学生議会の広報については、市民への適切な情報提供と事業の透明性確保を目的として、市ホームページ、広報紙、ポスター掲示を中心に実施した。令和 6 年度と比較すると、積極的な観覧募集や大規模な告知は行わず、事業の性質に応じた「必要十分な広報」を行った点が特徴である。

まず、開催告知については、市役所正面入口への大型ポスター掲示、市ホームページでの案内掲載、広報紙での事前周知を行い、市民が必要な情報にアクセスできる環境を整えた。昨年度は正庁に観覧席を設けたが、令和 7 年度は平日開催となったことから観覧席の設置は行っていない。

また、議会当日の様子については、録画映像を確認の上、議会 YouTube チャンネルにて配信した。再生回数は 590 回であり、通常配信の約 5 倍の視聴数を記録した。なお、昨年度は 動画タイトル設定・説明文・タグ付け等の SEO 対策を強化した結果、検索経由で視聴が広がり、9 万回を超える再生数を記録したが、今年度は同様の施策は意図的に行っていない。

これは、中学生議会が「広告して人を集めるイベント」ではなく、「議会が実施している教育事業を市民に正しく伝える場」とであるという原則に基づいており、SNS 等を用いた積極的な拡散や宣伝は行わなかったためである。許可を得た素材であっても、令和 6 年度のように著作権・肖像権上の課題が生じる可能性があるため、令和 7 年度はリスクマネジメントを優先した判断としている。

今後の広報については、動画配信のあり方、市ホームページでの情報整理、学校や保護者への周知方法などを含め、教育事業としての安全性と透明性を両立させる必要がある。議会としても、過度な宣伝ではなく、適切な範囲での広報を通じて、事業の信頼性と教育的価値を高める広報方針を検討していく。

第 3 章 事前学習および学校との連携

中学生議会の質を左右する要素として、学校との連携による事前学習（出前講座）の充実が挙げられる。本章では、各校の実施内容、教育効果、課題、今後への示唆を整理する。

1 出前講座の目的

出前講座は、生徒が一般質問を行うための基礎理解を身につけ、探究学習と議会活動をつなぐ役割を担っている。

具体的には以下の三つを目的として実施した。

1.議会制度の理解

市議会の役割、民主主義の仕組み、議会で何が決まるのかを体系的に学ぶ。

2.行政の仕事と予算の仕組みの理解

民生費・人件費・一般管理費等の構造、残り 1 割を未来への投資とする考え方など、行政運営の基礎を実感的に理解する。

3.質問づくりに必要な思考の型の習得

まちの課題を「自分ごと」から「社会課題」へ再構成する発想を学び、質問作成につなげる。

2 学校別の実施状況

● 芦原中学校（60 分×2 コマ）

- ・内容：議会制度、行政の役割、予算の考え方
- ・構成：座学中心・理解の基礎固めに重点
- ・担任・生徒からは「初めての内容が多く、基礎の理解が深まった」「特に予算の考え方が分かりやすかった」などの評価が示された。

※ なお、プレゼンテーション指導は学校側の意向により実施していない。

● 金津中学校（60 分×3 コマ）

- ・内容：議会制度、行政の役割、予算の考え方、プレゼンテーション指導
- ・構成：ハンバーガー方式、SS 法（シンプル・ストレート）
“伝わる話し方”の基本に重点

※学校側の希望により、実践的なアウトプットスキルに重点を置いた構成とした。

指導後の生徒からは、「話の組み立て方がわかった」「人前で発表する自信がついた」などの声があがり、特にプレゼン指導の教育効果が大きかった。

3 出前講座と探究学習との連動

両校のヒアリングから、出前講座と質問作成の関係について次のような傾向が見られた。

【良い点】

- ・行政の仕組みを知ったことで、自分たちの疑問を“政策課題”として捉え直せた。
- ・フィールドワーク等で得た課題が、具体的な質問へと昇華された。

【課題点】

- ・出前講座と探究学習の時間が離れると、生徒の理解が薄れ、質問づくりの深まりに影響する。
- ・特に金津中学校では、「初発の疑問 → 深掘り → 再構成」というプロセスが十分

に踏めなかったとの振り返りがあった。

4 今後の学校連携に向けた改善方向

ヒアリング内容を踏まえ、次年度に向けて以下の改善点が共有された。

(1) 出前講座のタイミングの最適化

- ・中学生議会本番に直結する形で、出前講座 → 疑問づくり → 質問作成の流れを作る必要がある。
- ・可能であれば「出前講座実施から本番まで1～1.5ヶ月以内」のスケジュールを確保する。

(2) 質問づくりのプロセスを明確化

- ・「初発の疑問 → 校内での深掘り → 再構成 → 提出」の4段階を標準フローとして提示する。

(3) プレゼンテーション指導の位置づけ

- ・教員からの評価が高いため、必要に応じて選択的に追加できるメニューとして整理する。

(4) 議員との関わり機会の創出

ヒアリングでは、以下の要望や提案があった。

- ・出前講座に2～3名の議員が交代で参加し、生徒の質問づくりを支援する。
- ・市役所見学时に議員が同行し、生徒の疑問に直接答える機会をつくる。

議会としても、持続的な学校連携のため、できる範囲で参画を検討する。

5 総括

事前学習は、中学生議会の教育効果と質問の質を左右する中核的な要素である。

令和7年度は、両校の特色に応じた柔軟な内容で実施したことにより、生徒が議会の仕組みや行政の役割を理解し、質問作成につなげる基礎が整えられた。

一方で、「探究学習との時間的連動」、「質問づくりのプロセス支援」、「議員との関わり方の設計」といった改善点も明らかになった。

次年度に向けては、教育委員会・学校と連携し、これらを踏まえた出前講座の再構成を進めるとともに、生徒が主体的に学び、社会に発信する力をより高められるよう取り組みを強化していく。

第4章 中学生議会当日の一般質問の分析

令和7年度の中学生議会では、両校から選出された16名の中学生議員が一般質問を行い、通学環境、地域課題、観光、教育環境、自然環境、生活環境など、幅広いテーマが取り上げられた。本章では、質問内容をテーマ別に整理し、市の答弁と教育的意義を分析する。

1 通学環境・生活安全に関する質問

生徒が日常生活の中で感じる不安や不便を基にした質問が多く見られた。

● 主な質問内容

- 通学路の段差解消
- 夜間の安全確保のための街灯増設
- 自転車レーンなど安全な通行空間の整備
- 横断歩道に関する危険箇所の改善

● 市の答弁（要旨）

- 舗装の劣化や幅員不足など、課題の背景を説明。
- 段差解消や歩道補修は計画的に進めていることを回答。
- 街灯は地域（区）が設置主体であり、市としては補助制度で支援することを説明。
- 自転車レーン導入については、道路構造や交通量の実態を踏まえて検討するとの方針を示した。

● 議会としての分析

安全に関する課題は、生徒が最も実感を伴って捉えるテーマであり、自らの生活体験が公共政策へとつながる好例となった。

2 地域経済・観光に関する質問

市の将来や地域のにぎわいに関わる質問が多かったことが今年度の特徴である。

● 主な質問内容

- ファストフード店（例：マクドナルド）の誘致
- 特産品の情報発信（ウェブサイト更新）
- 観光案内看板の設置
- 特産品活用スイーツの開発

● 市の答弁（要旨）

- 企業誘致は採算性、交通量、候補地適正など多面的な検討が必要であり、継続した協議を行ってきたことを説明。

- ・観光情報発信は、観光協会との連携のもと改善を進めていると回答。
- ・特産品スイーツについては既存の取組を紹介し、引き続きアイデアを参考にする姿勢を示した。

● 議会としての分析

中学生の視点からの提案は、市民感覚に基づいた実効的な意見であり、行政の施策検討にも資する内容が多かった。特にマクドナルド誘致の質問は後日に現実の動きと接続し、生徒の政治的効力感を高めた点で象徴的である。

3 教育環境・文化施設に関する質問

学習環境の質向上に関する質問が複数出された。

● 主な質問内容

- ・家庭科室・技術室など特別教室へのエアコン設置
- ・音楽ホールなど文化施設の整備
- ・図書館の利用促進・蔵書充実

● 市の答弁（要旨）

- ・体育館・理科室などを優先した計画的整備を進めていると説明。
- ・音楽ホール新設については、既存施設（アフレア・創作の森等）の活用を優先し、大規模整備は慎重であると回答。

● 議会としての分析

生徒の提案はいずれも学校生活に直結した内容であり、学びの場への期待が明確に示された。行政としても財源や優先順位を説明し、政策形成の現実を伝える教育的効果があった。

4 自然環境・まちづくりに関する質問

地域資源の保全や活用に関わる将来志向の質問も多く見られた。

● 主な質問内容

- ・北潟湖の塩分濃度調整と生態系保全
- ・北潟湖を「泳げる湖」として再生したいという提案
- ・公園・緑地の整備改善

● 市の答弁（要旨）

- ・水門による塩分濃度調整を実施していることを説明し、環境保全には複合的視点が必要であると回答。
- ・「泳げる湖」構想については、水質特性、安全性等の課題を踏まえながら適切な

方向性を検討する必要があると述べた。

● 議会としての分析

地域の未来像を描く提案が見られ、中学生が地域資源を主体的に捉えていることが確認できた。

5 生活環境に関する身近な課題

特定地域での騒音・生活環境に関する質問も出された。

● 主な質問内容

- ・神社に巣を作る鳥（サギ等）による騒音被害
- ・地域の匂い・雑音に関する困りごと
- ・公共施設の利便性改善

● 市の答弁（要旨）

- ・サギは鳥獣保護管理法の対象であり、対策には法的制限があることを説明した上で、巣立ち後の撤去や事前の追い払いなど、可能な範囲で対応する方針を示した。

● 議会としての分析

身近な不便を公共課題として取り上げた点に教育的意義がある。法制度が行政対応を左右する点を理解する機会にもなった。

6 理事者側答弁の特徴と評価

本年度の中学生議会における理事者側（市長・部局長）の答弁には、次のような特徴が見られた。

（１）前向きかつ簡潔な答弁姿勢

- ・生徒の質問に対して、専門用語を避けながら分かりやすく説明する姿勢が一貫していた。
- ・「できること」「難しいこと」を区分して回答し、次のアクションが明確であった。
- ・法令・予算上の制約がある事項については理由を丁寧に説明しており、行政の仕組みへの理解を促す内容となった。

（２）生徒の視点を尊重した回答

- ・生徒の気づきや意図に寄り添う言葉が多く、「大切な視点である」「課題として認識している」といった評価的言い回しが用いられていた。
- ・将来を見据えた質問に対しては、市の取組を紹介しながら政策形成の背景を説明し、生徒の提案と行政施策の接続を意識した回答であった。

(3) 教育的効果を高める答弁

- 特に北潟湖、生態系、企業誘致といった複雑なテーマでは、賛否だけでなく「なぜそうなるのか」「どのような観点が必要か」を丁寧に解説していた。
- 生徒は行政判断の背景にある多面的な視点を学ぶことができ、主権者教育として大きな効果をあげた。

(4) 総括

本年度の答弁は、全体を通して明快かつ建設的であり、生徒が市政を理解しやすいよう配慮された内容であった。これにより、一般質問を通じた生徒の学びは深まり、議会・行政・学校が協働する教育効果の高い取り組みとなった。

7 総括

令和 7 年度の質問内容は、身近な生活課題から将来のまちづくりまで幅広く、質の高い議論が展開された。理事者側の丁寧で前向きな答弁も相まって、生徒が政策形成のプロセスを理解し、主権者としての意識を育む機会となった。

第 5 章 成果と課題の整理

令和 7 年度の中学生議会は、事前学習の充実、学校との連携強化、交通支援の工夫など、前年より一歩進んだ運営を実施した。本章では、本事業がもたらした成果と、今後の改善に向けて明らかとなった課題を整理する。

1 主な成果

(1) 生徒の主体性・発信力の向上

- 生徒は自ら課題を発見し、根拠を整理した上で議場で質問を行うことができた。
- 大人の前で質問するという緊張感のある場を経験し、「自分たちの声が市政に届く」という実感を得ることができた。
- 特に地域経済やにぎわいづくりに関する質問は、市政の動きとの接点もあり、生徒の政治的効力感の向上に寄与した。

(2) 質問テーマの多様化（出前講座の効果）

今年度の一般質問では、通学安全、教育環境、自然環境、地域経済、生活環境など、幅広い分野が取り上げられた。特定の領域に偏ることなく、市政の多面的な側面から多様な視点で質問が行われた点が、今年度の大きな成果である。

この背景には、出前講座において、「議会制度」「行政の役割と予算の構造」「市が担う分野の全体像」といった“市政の俯瞰的理解”を促す内容を扱ったことがある。

生徒が市政の幅広さを知ることで、自分の生活課題だけでなく、地域社会全体を見渡した質問が増加した。議会としても、この質問の多様化は、事前学習の教育効果が明確に表れた成果と評価している。

（３）出前学習（出前講座）の教育的効果

- 議会制度、行政の役割、予算の考え方の理解が深まり、質問の質が向上した。
- 金津中学校ではプレゼンテーション指導を実施し、発表技術が向上した。
- 探究学習と議会活動の連動により、学校教育との親和性が高まった。

（４）理事者側答弁のわかりやすさと教育的配慮

- 生徒の視点を尊重しつつ、専門用語を避けた説明が行われた。
- 「できること・できないこと」を明確に区分して説明し、行政運営の理解が深まった。
- 生徒の意欲に応える建設的な答弁が多く、教育的効果が高かった。

（５）運営面での改善と安全確保

- 芦原中学校への交通支援（復路タクシー送迎）を実施し、保護者負担の軽減と安全確保を図れた。
- 学校の希望に応じて出前講座の構成・時間数を柔軟に調整するなど、学校との協働が強化された。

２ 今後の改善に向けた課題

（１）事前学習と質問作成のタイミングの調整

- 出前講座と探究学習が離れると学びの連続性が弱まる。
- 両校から「講座後すぐに質問づくりに入れる日程が望ましい」との意見があった。

（２）学年行事との調整（開催時期の課題）

- 令和７年度は１０月開催となったため、３年生の修学旅行・学校祭・進路指導と重なり学校負担が大きかった。
- 両校から共通して「本来は夏休みの開催が望ましい」との意見が示された。

（３）質問書提出スケジュールの再検討

令和７年度は、質問書の提出期限が早すぎるとの指摘が学校から寄せられた。特に「本番の１ヶ月以上前に提出する」という運営側の想定は、探究学習の進行や校内での検証作

業と十分に整合せず、「現場にとって負担が大きすぎる」との評価が示された。

令和 8 年度は 夏休み後半での開催を基本とする方向性が示されていることから、学校側からは質問書の提出期限は“8 月 10 日頃”が最も現実的であるとの具体的意見が寄せられている。

この時期設定により、

- 出前講座で得た知識をもとにした探究の深まり
- 校内での検証・指導の時間
- 生徒の理解形成に適した余裕

を確保することができ、学校側の負担軽減にもつながる。次年度に向けては、教育委員会および学校との調整を行いつつ、「夏休み後半開催」に合わせた質問作成期間の確保と、提出期限の見直しを重要な改善事項として位置づける。

（４）議員との関わり機会の拡充

- 生徒からは「議員と直接話せる場がもっと欲しい」という声が挙がった。
- 出前講座やリハーサル等で、議員が生徒と関われる仕組みの追加が検討課題である。

（５）政策反映プロセスの見える化

- 生徒から寄せられた提案が、市政にどのように反映されたかを可視化する仕組みが必要。
- 「採用・検討・不採用」のステータス管理は、政治的効力感を維持するうえで重要な要素である。

3 総括

令和 7 年度の中学生議会は、幅広い分野から質の高い質問が寄せられ、出前講座の教育効果と学校との連携の成果が明確に表れた。一方で、開催時期や学習プロセスの調整など、改善すべき点も明らかになった。次年度に向けては、学びの連続性の確保、学校負担の軽減、議員との関わり強化、政策反映の可視化の 4 点を重点に、より教育的価値の高い中学生議会を目指す。

第 6 章 次年度に向けた改善方向（提言）

令和 7 年度の中学生議会を通じて得られた成果と課題を踏まえ、令和 8 年度に向けて以

下の改善方向を提言する。本提言は、主権者教育の充実、市政への理解促進、生徒の主体的学びの深化を図ることを目的とする。

1 開催時期の最適化（原則：夏休み期間での実施）

学校側からの意見、学年行事との重複、探究学習との連動性の観点から、次年度は原則として「夏休み期間（8月）」での開催を基本方針とする。

● 理由

- 3年生の行事（修学旅行・学校祭・進路学習）との重複を回避できる
- 出前講座から本番までのスケジュールを密につなげられる
- 生徒・教員双方の負担軽減になる

● 方針

- 教育委員会・学校と連携し、年度当初に実施月を共有
- 総合的な学習の時間と接続させ、学びの連続性を確保する

2 事前学習（出前講座）の体系化と質の向上

出前講座は質問の質を左右し、教育効果にも直結するため、次年度は以下の点を標準化する。

● 基本構成（共通）

1. 議会制度と民主主義
2. 行政の役割と予算の考え方
3. まちの課題の見つけ方
4. 質問づくりの方法（初発の疑問 → 深掘り → 再構成）

● 選択メニュー（学校の要望に応じて）

- プレゼンテーション指導
- 議員による個別質問づくり支援
- 市役所見学との組み合わせ

● 目標

- 市政の全体像を理解した上で、より多様なテーマの質問が生まれる環境をつくる
- 探究学習との接続を強化し、学びの深まりを促す

3 議員との関わり機会の拡充

令和7年度のヒアリングでは、生徒・教員双方から「議員との直接交流時間がほしい」との声が挙がった。

令和8年度は以下の機会の創設を検討する。

● 交流機会の例

- 出前講座に複数議員が交代で参加
- 質問づくりワークショップを議員と実施
- 市役所見学時に議員が同行
- 小規模グループでの座談会の開催

● 期待される効果

- 生徒の疑問が自然に深まる
- 議員の活動や市政の仕組みを、よりリアルに理解できる
- 議員にとっても若年層の価値観を知る機会となる

4 交通支援の継続と仕組み化

令和7年度に実施した交通支援（芦原中学校の復路タクシー送迎）は、保護者の負担軽減と生徒の安全確保という観点で高い効果が確認された。

● 令和8年度の方針

- 夏休み実施を前提に、スクールバス運行計画を早期に調整
- バス運行困難な時間帯・区間は、市のタクシー利用支援などを組み合わせて検討
- 交通支援を予算書へ明示し、恒常化を目指す

5 政策反映プロセスの可視化の検討

生徒の提案が市政にどの程度反映されるのかという「見える化」は、主権者教育において極めて重要である。

● 具体案（議会としての提案）

- 生徒の提案を一覧化し、「採用」「検討」「不採用（理由付き）」の3区分で整理
- 議会ホームページや広報誌への掲載を検討
- 学校へのフィードバックの場（報告会等）を設ける

● 期待される効果

- 生徒の政治的効力感を維持し、令和8年度以降の意欲向上につながる
- 行政と教育の連携を強化し、透明性が高まる

6 議会としての総括

本事業は、議会・行政・学校が協働し、生徒が主体的に地域を考え、社会に発信する力を育む重要な取り組みである。次年度に向けては、開催時期の最適化、出前講座の質の向上、

議員との交流機会の拡大、交通支援の仕組み化、政策反映の可視化を重点に、さらに教育的価値の高い「中学生議会」の実現を図る。議会としては、これらの改善を着実に進め、地域の将来を担う人材育成へ積極的に寄与していく。

今後も、予算措置や庁内調整を通じて、主権者教育の充実と中学生議会の継続的な実施を支えていくとともに、生徒からの提案を行政運営に生かしていけるよう、関係部局と連携しながら取り組んでいきたい。

7 総括

本章に示した関係機関からの意見は、令和 7 年度の中学生議会の成果と改善点を多面的に捉える上で、重要な示唆を含むものである。議会としては、これらの声を踏まえ、学校教育との連携をさらに強化し、令和 7 年度以降の中学生議会をより教育的価値の高い事業へと発展させていく。

付属資料 第1部 芦原中学校 出前講座 詳細記録

芦原中学校において実施した出前講座（60 分×2 コマ）の内容を整理したものであり、議会制度理解と行政の役割の基礎的理解を目的とした授業の詳細を記録する。

● 実施概要

- 実施校：芦原中学校
- 時間構成：60 分×2 コマ
- 講座内容：① 議会制度の基礎
② 行政の仕事・予算の基本的考え方
- 学校側の意向：制度理解を重視した構成

● 講座内容（1 コマ目）

議会制度の基礎理解

（1）主な説明項目

- 市議会の役割と権限
- 議員の職務・議会と行政の関係
- 一般質問の意義
- 議会が地域課題を取り扱う仕組み

（2）指導上の工夫

- 生徒の生活実感に近い例（通学路・学校設備）を用いて説明
- 「議会は地域の課題を市に伝える公の場」であることを強調

（3）生徒の反応

- 「議会が何をする場所なのか理解できた」
- 「質問次第でまちが変わることが分かった」

制度理解そのものを深めることができ、基礎学習として大きな成果が見られた。

● 講座内容（2 コマ目）

行政の仕事と予算の考え方（基礎理解）

（1）主な説明項目

- 市が担う事務の範囲（福祉・教育・インフラ・防災など）
- 行政が意思決定する際の優先順位付けの必要性
- “限られた財源の中で何を実施するか”という考え方

(2) 指導方法

芦原中学校では、比喻や収益モデルなどは用いず、行政の広範な仕事を体系的に理解することに重点を置いた。

(3) 生徒の反応

- 「行政の仕事が想像以上に多いことが分かった」
- 「予算の配分がなぜ難しいのか理解できた」

● 総括

芦原中学校における出前講座は、「議会制度の理解」「行政の仕事の全体像」「優先順位の考え方」といった中学生議会の前提となる知識の土台形成に十分な効果が確認できた。一方、質問づくりの深掘りや発表技術については扱っていないため、必要に応じて今後の補完策（議員との対話機会等）を検討する余地がある。

付属資料 第2部 金津中学校 出前講座 詳細記録

金津中学校では、学校側からの希望により、議会制度理解に加えて発表力の向上に重点を置いた3コマ構成で実施した。インプット（理解）とアウトプット（発信）の両面を学ばせる内容となっている。

● 実施概要

- 実施校：金津中学校
- 時間構成：60分×3コマ
- 講座内容：① 議会制度の基礎
② 行政と予算の仕組み（飲食店収益モデルの応用）
③ プレゼンテーション技法の習得
- 学校側の希望：発表型学習が多く「話す力」を重視したいとの意向

● 講座内容（1コマ目）

議会制度の基礎＋アウトプット導入

芦原中学校と同様の制度説明に加え、途中で「自分の言葉で要約してみる」ミニワークを導入し、生徒のアウトプットスイッチを早期に入れる構成とした。

● 講座内容（2コマ目）

行政の仕事と予算の考え方（飲食店収益モデルを用いた理解支援）

（1）説明方法の特徴

行政予算の構造を理解しやすくするため、飲食店の1皿の収益構造（材料費・管理費・人件費・利益）を例に説明した。

（2）行政への置き換え

行政も同様に、「民生費」「教育費」「インフラ維持費」など、用途が固く定められた経費が多くを占めており、自由に使える財源は限定的であることを理解する構成とした。

（3）生徒の理解が深まった点

- 「行政が全部できない理由がよく分かった」
- 「質問の内容を現実的に考えられた」
- 「比喩で説明されて分かりやすかった」

疑問を“政策課題”として再構成する力が向上し、生徒の質問の質を高める要因となった。

● 講座内容（3 コマ目）

プレゼンテーション技法の習得

金津中学校の教育効果が最も顕著に見られたコマである。

（1）扱った内容

- ハンバーガー方式（結論 → 理由 → 具体例 → 結論）
- SS 法（シンプル・ストレート）
- 伝わる話し方（姿勢・声・間）
- 説明の構成メモの作り方

（2）生徒の反応（抜粋）

- 「話の組み立て方が分かった」
- 「人前で発表する自信がついた」
- 「どうしたら伝わるか考えられるようになった」

（3）教育効果

- 生徒同士のフィードバックが活発化
- 質問の表現が明確に改善
- 探究学習との連動性が強まった

● 総括

金津中学校の出前講座では、①制度理解 ②行政構造理解 ③発信技術が段階的に積み上がり、中学生議会での一般質問の質に顕著な向上が見られた。

特にプレゼンテーション指導は、生徒の態度・意識面にもプラスの変化が確認された。